

平成20年10月16日
南あ管理発第 352 号

国土交通省道路局長 様

南あわじ市長 中 田 勝 久



今後の道路行政についての意見・提案の提出について (回答)

平成20年9月19日付け国道企第37号をもって依頼のあった標記
の件について別添のとおり回答致します。

社会資本の根幹となる道路整備は、日本の経済社会の発展を支えてきた。国土の均衡ある発展を図るために、幹線道路網の整備が急がれていることは理解している。しかし、国、地方の財政状況から鑑みて、投資効果を検証しながら道路事業を進めなければならないと思う。真に、必要な道路は、高速道路にとらわれず地方の幹線道路を、国土の幹線軸としての位置づけも合わせて検討する必要がある。

しかしながら、本市が属する淡路地域は、神戸淡路鳴門自動車道の全線開通により、広域的な道路交通網、神戸淡路鳴門自動車道、国道28号、主要地方道福良江井岩屋線を軸とした道路ネットワークが形成された。今後は、淡路地域の産業、観光、交流の活性化、一般道路の渋滞緩和や、安全性確保を図るため、幹線軸へのアクセス道路の整備、さらに整備の遅れている、生活道路の整備も望まれている状況にある。

改善すべき点

1. 道路整備の実情を把握するとともに、真に必要な事業の実施
2. 市民(国民)の納得する事業計画でなければならない
3. 特に、道路関連外郭団体の情報公開を進め、道路事業にたいする国民の理解を得る必要がある

道路整備に対する要望

1. 地方の幹線軸を補完する道路整備
2. 慢性的な交通渋滞を解消する道路整備
3. ひとにやさしい道路としての交通安全施設の整備
4. 災害に強い道路整備
5. 生活道路の整備

○現状

広域的な道路交通網として、神戸淡路鳴門自動車道、国道28号、主要地方道福良江井岩屋線を軸とした道路ネットワークが形成されている。今後は、淡路地域の産業、観光、交流の活性化、一般道路の渋滞緩和や安全性確保を図るため、幹線軸へのアクセス道路の整備、さらに整備の遅れている生活道路の整備も望まれている状況にある。

市町村合併により、市民の行動範囲の拡大と市内道路整備水準の地域格差が顕著に現れている。

また、災害により孤立する地域も出ており、それらの改善要望が強い。

市内の700を超える橋梁については、老朽化が進んでおり、今後早急にこの対策を進めなければならない。

○課題

道路整備については事業計画を樹立し進めているが、地方財政の逼迫により事業の進捗が出来ていない。

少子高齢化に伴い道路交通安全施設の設置要望が強くなっており、危険地域、通学路を重点的に進める必要がある。

従来、地域の生活道路の維持管理を住民自ら行っていたが、高齢化に伴い管理が出来なくなっている。

防災上、特に必要な道路整備も順次進めなければならない。

橋梁について、架け替え・補修の調査を行い早急な手当が必要となっている。

南あわじ市は、合併4年目を迎え市民が一つになり南あわじ市の誇る豊かな自然資源を生かし、『「食」がはぐくむふれあい共生の都市』を都市像に掲げまちづくりを進めることとしている。

特に、南あわじ市の温暖な気候と豊かな自然は、農林水産業を代表する 1 次産業を発展させたが生産による生業の場としてだけでなく、今後は、『食』を柱とした他の産業との連携による雇用や交流を進め、さらに、多世代が共生するコミュニティ育成など、広く職(食)づくり、人づくり、安らぎづくりを図っていく。

そのため、市民と行政の対話と協働を大切にし、民と官それぞれが有する力を合わせスリムで機能的な行政への転換を図り、自立・持続可能な都市づくりを進める。

まちづくりの柱に観光振興がある。特に、今回実施されている神戸淡路鳴門自動車道の料金低廉化試行は、観光、交流のみならず物流などの拡大のチャンスと捉えている。地域をあげてこの利用促進に努め、地域の更なる発展を目指す。

今後の道路行政についての意見・提案

様式 ④

③道路施策の重点事項(代表事例、期待する効果や評価等)

兵庫県南あわじ市

○重点事項	○代表事例	○期待する効果や評価等	○その他
・地域活力の向上	国道バイパス機能を持つ広域農道と国道を結ぶ市道「茶屋池線」道路改良事業	交通渋滞の解消、地域開発など地域活力が向上する	
・総合的な交通安全対策及び危機管理の強化	地域の幹線道路県道「福良江井岩屋線」の交通安全施設整備事業	交通弱者の安全確保と、地域の物流、防災、交流、道路景観改善による地域の活性化が大きく期待される	都市計画道路として位置づけまちづくりに寄与する
・少子・高齢社会に対応した子育て環境、バリアフリー社会の形成			